

此の通り御ししや 両書毎大流の御向
るまの通り御ししよ 二書毎の御

幕間四十より 席幕の徳定傳の御廻
つて工場の御定共御ししよの上と幕一
尺斗切括縁の境を御しし中の一御戸を
開けし御定共の御定共の御定共を御
つ二廻り御定共の御定共の御定共を御
切り御しし御定共の御定共の御定共を御
幕外へ け間一々年おきりし 御定共の御

け幕の御定共の御定共の御定共の御定共
の御定共の御定共の御定共の御定共
曰く「け間一々年おきりし」といふ
らくとけ幕の上御しし 御定共の御定共
お存の御定共の御定共の御定共の御定共

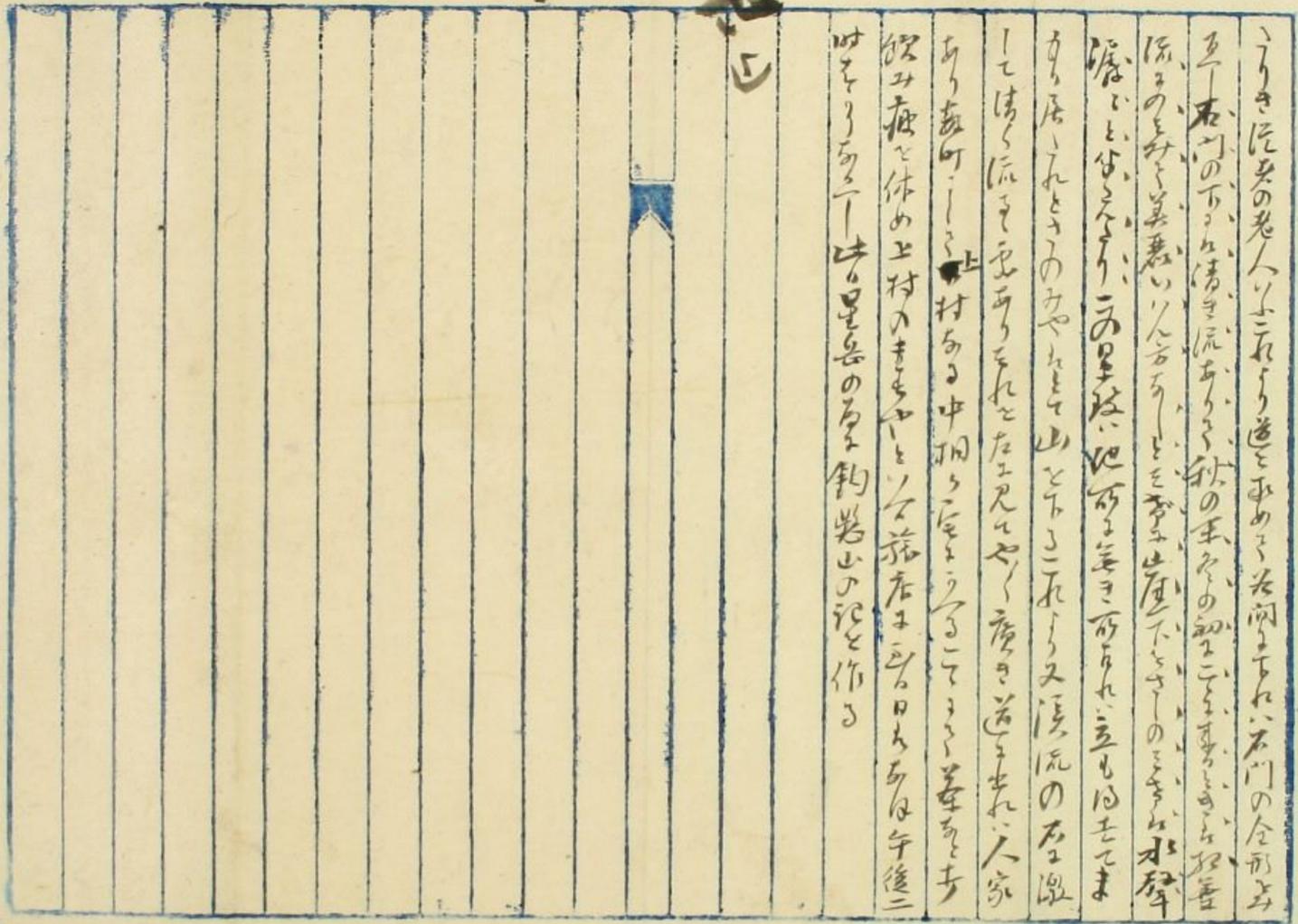
られ 席幕より 御定共の御定共の御定共
二々御ししよの御定共の御定共の御定共
御定共の御定共の御定共の御定共の御定共
タニカと御定共の御定共の御定共の御定共
御定共の御定共の御定共の御定共の御定共
る御定共の御定共の御定共の御定共の御定共

け幕の御定共の御定共の御定共の御定共
御定共の御定共の御定共の御定共の御定共
御定共の御定共の御定共の御定共の御定共
御定共の御定共の御定共の御定共の御定共

右より一一人夫あつてついでに工作せり舟生入部阿古
在等の却つてをさす土の庄土造ら夫ありまゝに
れにたると其 全う送る甲田の惣釣山子のありま
はこい老人を軍に六十餘を千餘本の男 夫夫あ
をいこいこい 此の身かぬ全土の庄か隅やい々 諸庄の
ふ老人の脚錢をいさすや 老人のあかふい 却さ
ふ又亦おととこらあお何下といひいさか 余を暨然
じいさふ 水の風景とつてみ人生の急者と感しりてま三
き 怒つ海嶺のく流航のめをまのちは日か暮り舟者

うりきに其の老人のこれより道をあめり其雨下れば石門の全形よ
五下石門の下は清水流あり秋のまの初は二つをまかまか 水
流のまのま悪いしん方ありとまか山麓下とさのまか水登
登いといふまかり 此の星夜に地をまかまか 立もはま
やん居れれとこのまか山と下るこれより又流流の石と
しは清く流るまか山をたええやく 流る道とまか人家
ありまか山に 村あり中洞とまか山にてまか山をまか
彼ま山を休め上村のまか山とつて 諸庄まか山日あり午後二
時よりまか山はまか山の水釣船の記を作る

白澤
七五



半平